４．衛生器具設備工事

目　　次

１）衛生器具類まわりの施工
ａ．取付け上の留意点
ｂ．大便器の取付け
ｃ．小便器の取付け
ｄ．洗面器の取付け
ｅ．器具調整

２）衛生器具まわりの配管工事の留意点
ａ．給水・給湯配管
ｂ．排水・通気管

４．衛生器具設備工事

１）衛生器具類まわりの施工

器具の納り、取付け位置（間隔、高さ、使い勝手、タイル割りなど）、取付け方法の検討を行う。また、器具によって取付け時期が異なるので搬入時期を考慮する。

ａ．取付け上の留意点

（1）施工中の器具は[illegible]壁けるため適切な養生を行う。

（2）器具を壁[illegible]ンガ、フランジ取付け位置に必要に応じて取付け用の補[illegible]れんが壁の場合はエキスパンションボルトを使用する[illegible]）をあらかじめ壁体に堅固に埋め込む。軽量鉄骨[illegible]加工材を、木造壁には堅木材などのあて木をあら[illegible]

（3）陶器[illegible]に埋め込む場合は陶器との接触部に、厚さ3mm 以[illegible]とする。

（4）陶器の締[illegible]らないようにする。また陶器が割れないよう、締過ぎに注意[illegible]

ｂ．大便器の取付け

（1）和風大便器

①コンクリート打設の際、大便器設置位置に型枠を入れる。

②据付け穴に便器をはめ込み、所定の位置に支えブロックなどを使用して、水平、高さとも正確に設置し、すきまにモルタルを入れ固定する。（図 3-4-1）

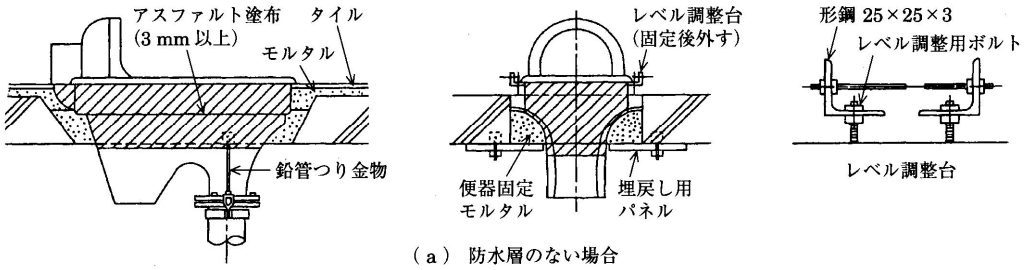
③耐火性能が必要な場合は、防火貫通部の処理を行う。

・耐火カバーは、日本建築センターの性能評定マークが貼付されたものを使用する（耐火被覆の場合は、1．5mm 以上の鉄板で 25mm 以上のロックウール保温板を包んだもの）。

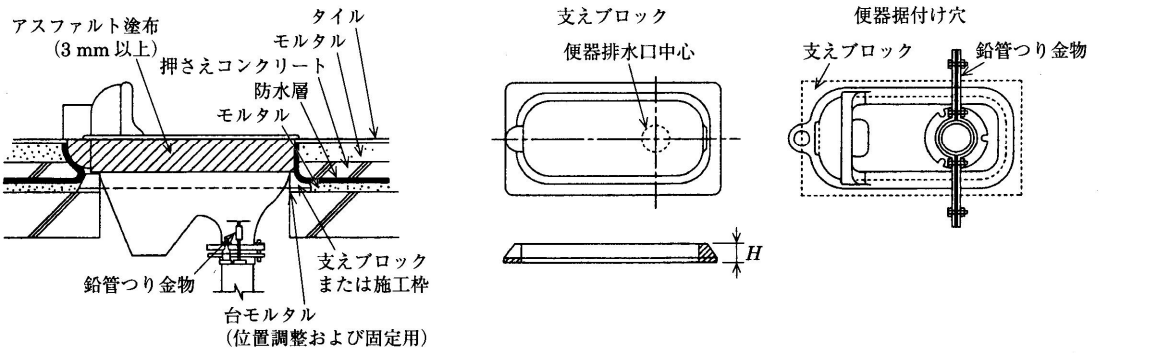
・陶器と耐火カバーとのすきまは、断熱材を充てんする。

・耐火カバーは、コンクリートスラブに堅固に固定する。

・躯体と耐火カバーのすきまは、モルタルなどで充てんする。（図 3-4-2）



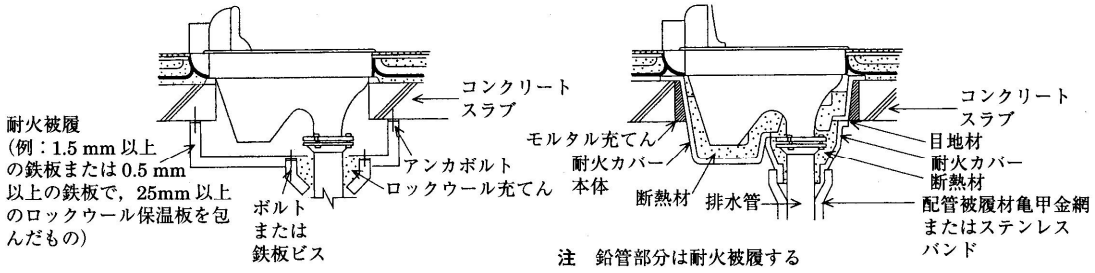
（ａ） 防水層のない場合



注 1) 支えブロックは，セメントモルタル製とし，必要に応じ鉄線を入れる．
2) H は，仕上げ床高に応じ定める．
3) 支えブロックまたは施工枠の形状，寸法は便器に適合するものとする．

（b） 防水層のある場合

図 3-4-1　和風大便器の取付け



（a） 耐火被覆を取り付ける場合

注 鉛管部分は耐火被覆する

（b） 耐火カバーを使用する場合(建築基準法令に適合する工法とする)

図 3-4-2　和風大便器の耐火処置

（2）洋風大便器

・あらかじめ所定の位置に排水管を立ち上げておく。

・床仕上げが終わった後、床フランジを排水管にはめ込み、床に固定する。

・排水管を床フランジのテーパ面にそわせ、床フランジの上部まで十分広げる。

・便器を所定の位置に正確に固定する。(図 3-4-3)

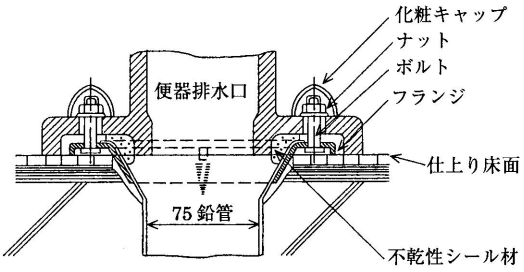


図 3-4-3　洋風大便器の排水接続例

c．小便器の取付け

壁掛け小便器・ストール小便器の取付け上の留意点

（1）壁掛け小便器

・所定の位置に排水管[illegible]壁仕上げが終わった後、壁フランジを排水管にはめ込み壁に[illegible]

・鉛管切口を[illegible]けし、小便器を所定の位置にあてがい締め付けて固[illegible]

（2）ストール小[illegible]

・所定の位置[illegible]立ち上げ、床仕上げが終わった後、床フランジを[illegible]管を床フランジのテーパ面にそわせ、床フランジ上部[illegible]置に正確に固定する。（図 3-4-5）

・床に排水こう配か[illegible]かい物をして小便器の水平を出し、固定した後すきまを白セメントなどで埋め仕上げる。（図 3-4-6）

・トラップがない小便器は別にトラップを取り付ける。

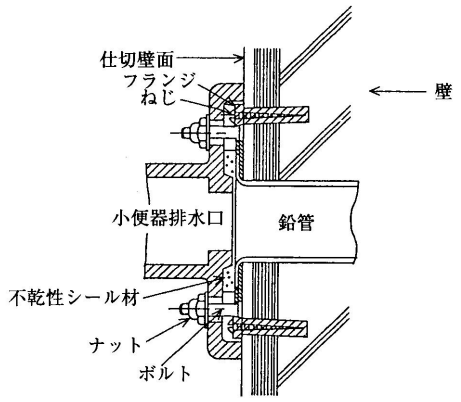


図 3-4-4　壁掛け小便器の排水接続例

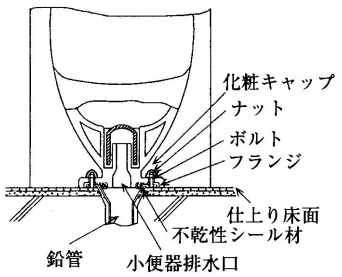


図 3-4-5　ストール便器の排水接続例

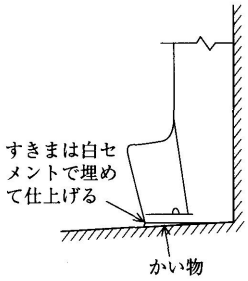


図 3-4-6　ストール形小便器のすきまの処理例

d．洗面器の取付け

（1）洗面器の本体に水栓、金具を取り付けておく。

（2）所定の位置・高さにブラケットまたはバックハンガーを取り付け、陶器上線を水平にかつ堅固に固定する。

(3) バックハンガで本国定の後、高さ調整が必要な場合は、バックハンガと壁の間に金属片をはさみ、調整する。(図 3-4-7)

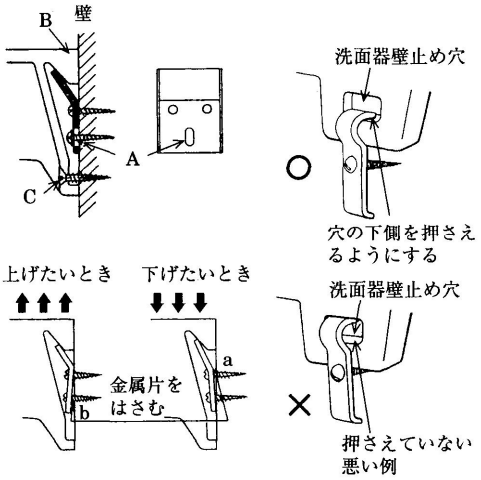
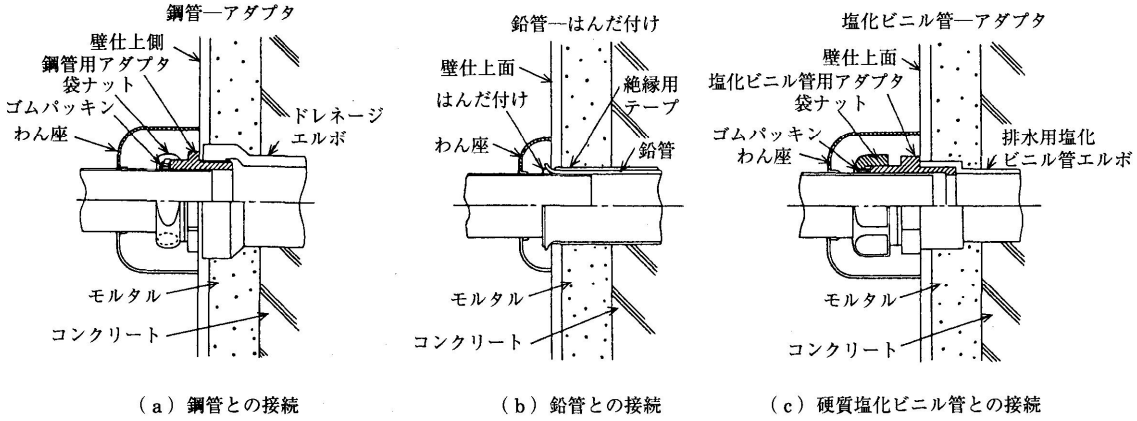


図 3-4-7　洗面器のバックハンガ取付け例



(a) 鋼管との接続　(b) 鉛管との接続　(c) 硬質塩化ビニル管との接続

図 3-4-8　洗面器の排水管接続詳細

e．器具調整

竣工前に必ず通水し、操作性および機能の調整を行う。この際、使用者や保守管理者の立場に立って使い勝手などを考慮して調整する。

(1) 大便器

・洗浄弁の場合は、ハンドルを押して流出水量・状態をみて、止水栓の開度を調整する。また、正常な流水時間で停止するかを確認する。

・ロータンク式の場合は、止水栓・タンク内のボールタップで調整する。ボールタップをタンク内に押し沈めて吐水させ、オーバフロー管が飲み込める開度に止水栓を調整する。また、ボールタップが自由に上下するように調整する。

・ハンドルを回して正常な流水と停止を確認する。

・洗浄管の接続部や排水管との接続部などからの漏水がないことを確認する。

（2）小便器

・洗浄弁の場合は、大便器と同様である。リップからあふれ出ないように、また洗浄が不十分にならないように調整する。

・連立ハイタンクの[illegible]ホンが正常に機能するか、各小便器に平均に洗浄水が流下する[illegible]が適正となるよう止水栓を調節する。

・自動洗浄[illegible]タイマ設定によるものが多い。感知センサ、タイマ[illegible]のシステムに応じた調整を行う。

・大便器[illegible]の漏水がないことを確認する。

（3）洗面器

・水勢が強[illegible]。
またオーバ[illegible]水を出しながら個々の止水栓を調整する。

・ポップアップ式排[illegible]調整する。

・自動水栓は、吐水口部に手をかざし感知機能を確認する。

・器具のがたつきがないか、給水部、排水部からの漏水がないかを確認する。

・カウンタ式の洗面器はカウンタに水をまき、カウンタと陶器の間からの水が漏れないかを確認する。

2）衛生器具まわりの配管工事の留意点

a．給水・給湯配管

（1）埋込み配管は被覆養生を行い、器具取付けボルトの位置を避けて配管をする。

（2）器具接続用の取出口は、止水栓や洗浄弁が直接ねじ込める深さとし、持出しソケットなどの使用は避ける。

（3）連立小便器をハイタンク自動洗浄方式で洗浄する場合トーナメント配管とし、平均に流れるようにする。

（4）自動サイホンによる洗浄ではトラップ配管とならないようにする。

b．排水・通気管

・排水管には、滞留を起こさないよう管径に見合った勾配をつける。

・壁排水型の大便器の場合、接続排水管のこう配を適切にとらないと洗浄不良を起こす場合がある。（図 3-4-9）

・排水管には詰まった場合のことを考慮し、掃除口を要所に設ける。

・通気管は、器具のあふれ縁より 150mm 以上上方で通気立て管に接続する。

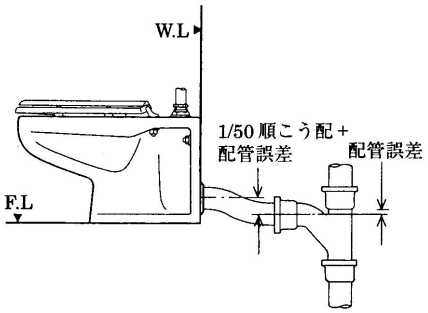


図 3-4-9　施工誤差を見込んだ分岐高さ